

お客様各位

■ □ = = = = =  
□  
株式会社 京浜予防医学研究所  
■ □ K M L メールニュース □ ■ ◆ ◆ VOL. 46 ◆ ◆

= = = = = □ ■

株式会社 京浜予防医学研究所 よりお知らせ致します！  
2012年 11月 22日発行  
□ ■ http://www.kml-net.co.jp/

K M L メールニュースVOL. 46をお送り致します。  
お忙しい事とは存じますが御一読いただきまして、先生方の  
一助として頂ければ幸いです。

☆☆ トピックス ☆☆

- 【1】 「ガ」は「ダニ」に次いで重要な室内抗原です！  
－意外と知られていない昆虫アレルギー－
- 【2】 検査項目情報：抗SS-A/Ro抗体、抗SS-B/La抗体
- 【3】 検査項目情報：インフルエンザ（HI）測定株変更について
- 【4】 検査項目情報：ノロウイルス迅速検査  
－これから流行を迎えるノロウイルスについて－
- 【5】 K M L インフォメーション 9月～11月分のお知らせ

「1」 「ガ」は「ダニ」に次いで重要な室内抗原です！  
－意外と知られていない昆虫アレルギー－

【ガは屋内で見ないけど・・・】  
ガは、屋内外に発生します。屋内では、食品に発生するメイガ、衣類に発生するイガなど屋内環境中に発生し、私たちの身近な場所に生息しています。

メイガ：成虫の大きさは6～9mm。穀類、乾燥果実、お菓子やペットフード等、食品を害する食品害虫です。

イガ：成虫の大きさは4～6mm。ウールなどの動物性繊維を使用した衣類や布団に発生する衣類害虫です。

【何がアレルギーとなるの？】

アレルギー名	アレルギーとなるもの※1
ガ	体や翅を覆う鱗粉（りんぷん）、幼虫の糞
ゴキブリ	糞や虫体の死骸（破砕された虫体が室内塵に混入）
ユスリカ（成虫）	虫体の死骸（破砕された虫体が空气中に浮遊）

【昆虫アレルギーの感作率は？】  
ガやゴキブリは、気管支喘息、アレルギー性鼻炎ではダニ、スギに次いで頻度の高い吸入性アレルギーです。※2, ※3

アレルギー名	気管支喘息※2	アレルギー性鼻炎※3	小児アレルギー（BA, AR, AD）※4		
			0-1歳	2-5歳	6-15歳
ガ	50.0%	32.5%	14.3%	33.6%	40.7%
ゴキブリ	26.6%	13.4%	23.8%	30.4%	31.1%
ユスリカ	23.4%	16.1%	9.5%	27.4%	27.4%

【注意すべき時期】  
ガやユスリカは特に夏から秋にかけて抗原量が増加します。また昆虫感作例では、抗原量が増加する春と秋に発症または悪化することが報告されています。  
ゴキブリは通年性と考えていただいて構いません。

【検査するメリットは何?】  
特に方は身近に生息していますが、屋内アレルゲンとしての認知度が低いこと、夜行性で生活環境の中で目にする機会が少ないことから、問診による聴取が難しく、見過ごされやすいアレルゲンです。  
検査することで原因を特定することが可能となり、具体的な指導により患者さまのQOL向上に繋がります。

【推奨セット】

\*\*\*\*\*

CAP16 鼻炎・喘息 (項目コード2440)

- 季節性抗原 (空中抗原増加時期)  
スギ (2~4月)・ヒノキ (3~5月)・ハンノキ (1~5月)  
カモガヤ (5~8月)・ブタクサ (8~10月)・ヨモギ (8~10月)  
ガ (初夏・秋)・ユスリカ (初夏・秋)

- 通年性抗原  
ハウスダスト1・ヤケヒョウヒダニ・ネコ皮膚・イヌ皮膚  
カンジダ・アスペルギルス・アルテルナリア・ゴキブリ

検査項目	: CAP16 鼻炎・喘息
検体量	: 血清1.2mL
容器番号	: 1
保存方法	: 冷蔵
検査実施料	: 1430点
検査判断料	: 144点 (免疫学的検査)
所要日数	: 3~5日
基準値	: 0.34UA/mL以下

\*\*\*\*\*

参考文献

- ※1 アレルギー・免疫7 (4), 448-458, 2000
- ※2 アレルギー・免疫13 (4), 548-554, 2006
- ※3 日耳鼻105: 1181-1188, 2002
- ※4 日本小児アレルギー学会誌 20 (1), 109-118, 2006

2 検査項目情報: 抗SS-A/Ro抗体、抗SS-B/La抗体

抗SS-A抗体、抗SS-B抗体のSSはシェーグレン症候群の名前に由来しています。これらはすでに抗Ro抗体、抗La抗体として報告されたもので、上記のように記載されます。

抗SS-A/Ro抗体は、シェーグレン症候群のみならず、SLEや他の膠原病でも陽性を示す確率が高いですが、抗SS-B/La抗体の場合、抗SS-A/Ro抗体よりも検出感度が低く、シェーグレン症候群以外の膠原病で陽性を示す確率が低いため、疾患特異性が高いとされています。  
単独で陽性になることは稀で、通常抗SS-A/Ro抗体とともに検出されます。

【シェーグレン症候群】

シェーグレン症候群は1933年にスウェーデンの眼科医ヘンリック・シェーグレンが発表した疾患です。  
自己免疫性疾患の一つで、中年女性に好発し、自己抗体によって涙腺や唾液腺が障害を受け、乾燥症状をきたしますが、全身の臓器に病変を起こすこともあります。病因は不明です。

診断基準 (厚生省特定疾患免疫調査研究班 1999年)

1. 生検病理組織検査で次のいずれかの陽性所見を認めること
  - a) 口唇腺組織で4mm<sup>2</sup>あたり1focus (導管周囲に50個以上のリンパ球浸潤) 以上
  - b) 涙腺組織で4mm<sup>2</sup>あたり1focus (導管周囲に50個以上のリンパ球浸潤) 以上
2. 口腔検査で次のいずれかの陽性所見を認めること
  - a) 唾液腺造影でStage I (直径1mm未満の小点状陰影) 以上の異常所見
  - b) 涙液分泌量低下 (ガム試験にて10分間で10mL以下、またはサクソテストにて2分間で2g以下) があり、かつ唾液腺シンチグラフィーにて機能低下の所見
3. 眼科検査で次のいずれかの陽性所見を認めること
  - a) シルマー試験で5分に5mm以下で、ローズベンガル試験 (van Bijsterveldスコア) で3以上
  - b) シルマー試験で5分に5mm以下で、かつ蛍光色素試験で陽性
4. 血清検査で次のいずれかの陽性所見を認めること
  - a) 抗SS-A/Ro抗体陽性
  - b) 抗SS-B/La抗体陽性

上記4項目のうちいずれか2項目以上陽性であればシェーグレン症候群として診断されます。

シェーグレン症候群が疑われる場合や経過観察に抗SS-A/Ro抗体、抗SS-B/La抗体検査をお役立てください。

\*\*\*\*\*

検査項目 : 抗SS-A/Ro抗体 (ELISA法)  
項目コード : 2502  
検体量 : 血清0.4mL  
容器番号 : 1  
保存方法 : 冷蔵保存  
検査実施料 : 170点  
検査判断料 : 144点 (免疫学的検査)  
所要日数 : 4~5日  
基準値 : 7.0U/mL未満

検査項目 : 抗SS-B/Ro抗体 (ELISA法)  
項目コード : 2505  
検体量 : 血清0.4mL  
容器番号 : 1  
保存方法 : 冷蔵保存  
検査実施料 : 167点  
検査判断料 : 144点 (免疫学的検査)  
所要日数 : 4~5日  
基準値 : 7.0U/mL未満

\*\*\*\*\*

3 検査項目情報：インフルエンザ（HI）測定株変更について

インフルエンザ（HI）測定株を本年度インフルエンザ製造株に対応した試薬に変更いたしますので、ご案内申し上げます。

新	旧
変更なし	A/カリフォルニア/7/2009pdm
A/ビクトリア/361/2011	A/ビクトリア/210/2009
B/ウィスコンシン/1/2010	B/ブリスベン/60/2008

詳細につきましては、下記URLをご覧ください。  
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2012-1022.pdf>

4 検査項目情報：ノロウイルス迅速検査  
—これから流行を迎えるノロウイルスについて—

【ノロウイルスとは】

急性胃腸炎を起こす食中毒の原因の1つで、冬場を中心に流行し、高齢者施設・学校・保育園などで集団感染の事例が見られます。主に経口感染により体内に入り、腸の細胞内で増殖し、急性胃腸炎を起こします。感染力が非常に強く、感染者の糞便や嘔吐物、それらからの飛沫物、衣服や直接接触した物などに付着した、ごく僅かなウイルスを吸い込むなどでも感染が成立します。

10~100個のウイルスで感染すると言われ、感染者の嘔吐物1ccには、約1万~1億個のウイルスが含まれています。重症化に至るケースとして、乳幼児や高齢者、抵抗力が低下している人、合併症により症状が長引いた場合などがあります。

- 感染原因
  - ・経口感染：ウイルスに汚染された飲食物などを摂取する
  - ・飛沫感染：ウイルスを含む飛沫を吸い込む
- 媒体
  - ・十分な加熱をしていない、汚染されたカキなどの二枚貝
  - ・感染者の汚染された手で触れた、食材、食器や調理器具など
  - ・感染者の糞便・嘔吐物やその飛沫、またそれらが乾燥により空气中へ浮遊したエアロゾル
- 症状
  - ・主症状として腹痛、吐気、嘔吐、下痢が表れる
  - ・潜伏期間は24~48時間
  - ・症状は3~4日で治まる
  - ・症状回復後は大人で2~3週間、子供で1ヶ月以上、ウイルスが便に排出される

